

**製品名: NPY ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14858**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用****希釈倍率** WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	NPY
別名	NPY; Pro-neuropeptide Y
遺伝子 ID	4852.0
SwissProt ID	P01303
免疫原	抗血清はヒト NPY 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 45-94

**背景**

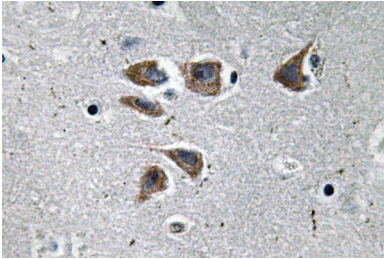
この遺伝子は、中枢神経系で広く発現し、皮質興奮性、ストレス反応、摂食、概日リズム、心血管機能など、多くの生理学的プロセスに影響を与える神経ペプチドをコードしています。この神経ペプチドは、G タンパク質共役受容体を介してアデニル酸シクラーゼ

を阻害し、マイトジェン活性化プロテインキナーゼ (MAPK) を活性化し、細胞内カルシウム濃度を調節し、カリウムチャンネルを活性化します。この遺伝子の多型によりシグナルペプチドの 7 番目のロイシンがプロリンに変化することは、コレステロール値の上昇やアルコール摂取量の増加と関連しており、様々な代謝性疾患や心血管疾患の危険因子となる可能性があります。また、このタンパク質は細菌や真菌に対して抗菌活性を示します。 [RefSeq 提供、2014 年 10 月],機能: NPY は摂食制御とゴナドトロピン放出ホルモンの分泌に関与している。 ,オンライン情報: ニューロペプチド Y エントリー,類似性: NPY ファミリーに属する。 ,組織特異性: 神経系で最も豊富なペプチドの一つ。副腎髄質の一部のクロマフィン細胞にも存在する。 ,

## 研究分野

アディポサイトカイン;

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における NPY 抗体の免疫組織化学分析。